

覺勝寺だより

慈光照護のもと、門徒各位におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。

平素は、覺勝寺護持運営にあたり、ご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

さて、真宗で一番大切な報恩講法要を十月十八日に勤修いたします。報恩講は、「ほんこさん」と呼び、門徒の皆様にも親しまれている法要です。で、時間の許す限りお参りください。

引き続き、今後の行事につきましても、新型コロナウイルス感染症防止対策を行った上で、進めて参りたいと思っておりますので、ご理解をお願いいたします。

合掌



第七・八回総代会報告事項

一、報恩講法要について

孟蘭盆会の時に伝えました報恩講法要勤修については、新型コロナウイルス感染症防止対策として、三密(密閉・密集・密接)を避けて行うため、日中と速夜を班分けで執り行います。

※日中 二班から六班の門徒

※速夜 七班から十班・他所門徒

班分けでご都合が悪い場合は、都合のつく方にお参りください。

二、山本総代の退任について

八月末に山本総代から田中住職へ、一身上の都合による退任の申し出について、九月六日の臨時総代会の席上承認されました。



報恩講法要の勤修

一、日時

十月十八日(日)

日中 十時から

(一班から六班)

速夜 十四時から

(七班から十班・他所)



一、勤行 正信偈

一、法話

法圓寺住職(近江八幡市)

木戸正賢師

親鸞聖人のご遺徳を偲び、そのご苦勞を通じて、阿弥陀如来のご本願によるお救いをあらためて心に深く味わわせていただく法要です。他所からお参りの方は、本堂裏の駐車場をご利用ください。

年番の方は、法要のお手伝いをお願いいたします。準備は、八時十五分から、後始末は十五時三十分から行いますので、ご協力をお願いします。

○勉強法座の開催

十月十八日(日) 十九時から

内容：親鸞聖人の生涯と教え

定例法座

今年初めての定例法座を、九月六日(日)十時三十分より開催しました。

重誓偈勤行の後、田中住職の法話(啐啄同時など)を拝聴しました。十九名の門徒の皆様にお参りいただきました。



覺勝寺行事予定

◎十月班別清掃

十月四日(日)

九時十五分から

※鎌をご持参ください。

◎報恩講法要

十月十八日(日)

日中 十時から

速夜 十四時から

◎勉強法座

十月十八日(日)

十九時から

覚友会・仏壯・仏婦対象

滋賀教区・犬上組 行事予定

○物故者追悼法要

九月二十六日(土) 本光寺 十三時三十分から

九班・十班 (13・14・15組)

総代連絡先

北川善雄 25-0660

尾本 博 28-1436 西崎文雄 28-8104

田中住職(代務) 連絡先

本光寺 彦根市八坂町 1318

TEL&FAX：28-0572

浄土真宗 本願寺派

圓鏡山 覺勝寺

彦根市開出今町 258



報恩講の歴史とところ

《報恩講のはじまり》

永仁^{えいにん}2 (1294) 年、親鸞^{しんらん}聖人の33回忌に際し、聖人の曾孫^{ひまご}にあたる本願寺第3代宗主^{しゅうしゅ}覚如^{かくにょ}上人^{しょうにん}は『報恩講私記』^{ほうおんこうしき}を撰述^{せんじゆつ}されました。聖人のご命日^{もん へいどく}にこのご文^{ほうおんかんしゃ}を拝読し報恩感謝^{ほうおんかんしゃ}の想^{おも}いを表されたのです。これが「報恩講」のはじまりです。

『報恩講私記』は『報恩講式』ともいわれます。「講式」というのは、仏さまや高僧のお徳^たを讃^{たた}えるために書かれた文章です。漢文で書かれ、拝読する時は読み下す^{くだ}という原則があります。覚如上人はそうした伝統的な形式にのっとり、親鸞聖人のお徳^たを讃^{たた}えられたのでした。

覚如上人は『報恩講私記』の中で、親鸞聖人のお導^{みちび}きによって阿弥陀如来のご本願^{ほんがん}をお聞かせいただいたことへのよろこびを述べておられます。そして、「おのおの他力に帰して^{ふつごう とな}仏号を唱へよ」と、本願他力のみ教え^{ほんがんたりき}に帰依^{きえ}してお念仏^{すず}申しましょと勧められました。私^{しめ}たちも、このお示^{じっせん}しを實踐^{じっせん}したいものですね。

《蓮如上人と報恩講》

報恩講は当初、親鸞聖人の毎月のご命日^{めいにち}にお勤めされていましたが、本願寺第8代宗主^{れんにょ}蓮如上人^{れんにょ}の頃から、年^{しゅうつきめいにち}に一度、祥月命日^{しょうつきめいにち}にかけての七昼夜お勤めする方式になったようです。これを「御正忌報恩講^{ごしょうきほうおんこう}」といいます。

蓮如上人はその御正忌報恩講^{ごしょうきほうおんこう}に参詣^{さんけい}する人々のありさまをご覧になって、「信心を得た人もいるが、不信心の者もある」と述べておられます(『御文章』五帖目第十一通、御正忌章)。鋭^{すど}いご指摘^{しんせき}ですね。そして、「信心を得ていない人はすみやかに信心をいただくかなければなりません」とお示し下さいました。

一宗^{いっしゅう}の繁昌^{はんじょう}というのは、人が多く集まることではない、一人でも信心を得ることだ、との蓮如上人のお言葉も伝わっていますが(『蓮如上人御一代記聞書』第一二一条)、浄土真宗においては、ご信心をいただくということが何より大切なことです。報恩講に参らせていただき、親鸞聖人が説かれた肝要^{かんよう}、他力信心^{たりきしんじん}のおいわれをよくよくお聞かせいただきましょう。